ボーリング柱状図

調　査　名　平成28年度公営住宅(弥永住宅(2区2期))新築工事地質調査委託

ボーリングNo	5	0	3	0	2	3	3	4	0	0	1

事業・工事名

シートNo

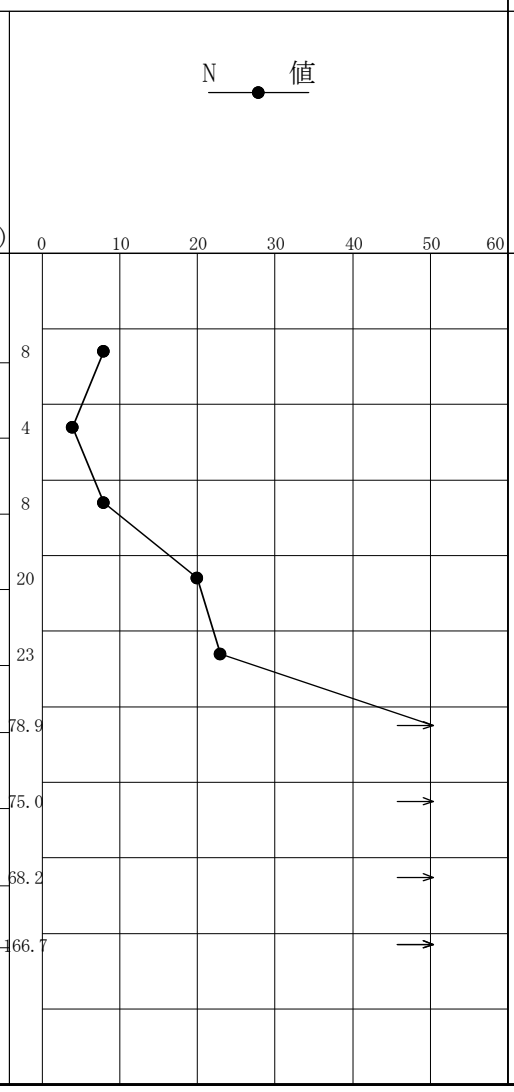
ボーリング名	No.1	調査位置	福岡市南区弥永団地			北緯	33° 31' 53.1"
発注機関	福岡市 住宅都市局 住宅部 住宅建設課			調査期間	平成 28年 7月 6日 ～ 28年 10月 3日	東経	130° 26' 13.1"
調査業者名	株式会社 海洋ソイルテック 電話 (092-567-7007)	主任技師	橋本雄一郎	現場代理人		コア鑑定者	橋本雄一郎	ボーリング責任者	百崎旅人
孔口標高	H=17.17m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°	使用機種	試錐機	ワイビーエム YBM-05型	ハンマー落下用具	半自動型
総掘進長	9.19m								エンジン	ヤンマー製 NFD8型	ポンプ	ワイビーエム GP-5型

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	16.27	0.90	0.90		埋土・砂質土	茶褐			表層5cmはφ20mm前後の砕石主体。以深はマサを用いたシルト混じり砂。細砂～中砂を主体とする。
1 2	14.87	1.40	2.30		砂質シルト	茶褐～暗灰		中位～軟らかい	全体に細砂を多く混入し、不均質。上部は含水量が少ないが、下部は中位となる。粘性がやや小さい。下部は腐植土を含む。
3 4	12.27	2.60	4.90		礫混じり砂	暗褐灰～灰	緩い		上端はシルト質砂。上層より漸移。花崗岩起源の砂を主体とし、下方へ粒子が粗くなる。シルト分が少なくなるとともに、φ2～5mmの細礫が多くなる。含水量は中位。深度4.0m付近よりφ10mm前後の礫が多くなり、最大φ30mm程度を確認。
5	11.17	1.10	6.00		強風化花崗岩	灰～緑褐灰			調査地の基盤地質。岩芯まで風化が進み、砂質土状。試料は指圧で容易に壊れるほどで、岩としては脆弱。
6 7 8 9	7.98	3.19	9.19		風化花崗岩	緑灰～灰			依然として岩芯まで風化が及んでいるが、上層に較べて明らかに硬質で、軟岩に相当する岩盤。建築物の支持層としては堅固な地盤と評価される。
10									

孔内水位(m)／測定月日：8/2 2.75

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	3	2	3	8/30	8
1.45 2.15	1	2	1	4/30	4
2.45 3.15	3	2	3	8/30	8
3.45 4.15	5	7	8	20/30	20
4.45 5.15	5	8	10	23/30	23
5.45 6.15	20	30/9		50/19	78.9
6.34 7.15	26	24		50/20	75.0
7.35 8.15	19	26	5/2	50/22	68.2
8.37 9.10	50/9			50/9	166.7
9.19					



原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法
3.15 3.45	P1-1	⊖ 粒度

室内試験(　)	掘進月日
	8/2
	8/3